

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----------|
| 理念に基づく運営 | 11 |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 2 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 6 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 11 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | 30 |

| | |
|-------|-------------------|
| 事業所番号 | 4370201008 |
| 法人名 | 社会福祉法人 権現福祉会 |
| 事業所名 | グループホーム 清陽 |
| 訪問調査日 | 平成 19年 12月 19日 |
| 評価確定日 | 平成 20年 1月 4日 |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 NPOくまもと |

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 1月 4日

【評価実施概要】

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 事業所番号 | 4370201008 |
| 法人名 | 社会福祉法人 権現福祉会 |
| 事業所名 | グループホーム 清陽 |
| 所在地 | 八代市場町47番1号 (電話) 0965 - 35 - 0678 |

| | | | |
|-------|-------------------|-------|-----------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 NPOくまもと | | |
| 所在地 | 熊本市上通町3番19号402号 | | |
| 訪問調査日 | 平成19年12月19日 | 評価確定日 | 平成20年1月4日 |

【情報提供票より】(平成19年 12月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|--------------|--------|----------------------------|
| 開設年月日 | 平成 16年 4月 1日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 16 人 | 常勤 | 15 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 15.8 人 |

(2) 建物概要

| | |
|------|------------------|
| 建物構造 | 木造瓦葺平屋建 造り |
| | 1 階建ての 階 ~ 1 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|------------|----------------|---------|-------|
| 家賃(平均月額) | 33,000 円 | その他の経費(月額) | 6,000 円 | |
| 敷 金 | 無 | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 300 円 | 昼食 | 400 円 |
| | 夕食 | 500 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり 円 | | | |

(4) 利用者の概要(12月 1日現在)

| | | | | | |
|-------|------------|------|------|----|-------|
| 利用者人数 | 17 名 | 男性 | 1 名 | 女性 | 16 名 |
| 要介護1 | 3 名 | 要介護2 | 2 名 | | |
| 要介護3 | 3 名 | 要介護4 | 8 名 | | |
| 要介護5 | 1 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 87.76 歳 | 最低 | 78 歳 | 最高 | 100 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-----------------------|
| 協力医療機関名 | 田淵内科クリニック、坂本病院、増田歯科医院 |
|---------|-----------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

八代市郊外の田園風景が広がる場所に、和風平屋造りの二棟が建っている。入居者は地元の人でも家族は遠方に住んでいる方のために、居室に宿泊用の寝具を持ち込んでいる人もいて、訪問時には、入居者と家族の時間を充実したものになるよう支援している。又、今後入居者の介護度アップに備えた勤務体制や職員の研修会参加、資格取得のバックアップ体制も整備され、ケアの向上に向けた取り組みが法人全体で行われている。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|------|--|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 転倒を防止に関しては、ADLの維持に努め入居者の移動時には職員が見守り、声かけを行うことで減少できた。寝たきり防止に関しては、入居者の体調に合わせリクライニング車椅子を活用し昼間は離床を促したり、軽作業の参加を呼びかけるよう支援している。臥床時間を減らした結果食欲も増し、夜間の良眠に繋がった。 |
| 重点項目 | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 管理者及び職員は自己評価・外部評価の意義や目的を理解しており、職員全員が自己評価に取り組んだ。評価後、見出された改善項目は職員間で話し合い、意識付けと日々のケアの中で生かされるよう努力している。 |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) |
| | 定期的に運営推進会議は実施されており、議題は、ホームの理念や行事・活動報告・ターミナルケア等の説明が行われている。委員の構成も月によって入れ替えるなどして、多くの方に参加を呼びかけている。会議を通して地域のボランティア活動を知りホームとの交流に繋げている。会議で出た意見は職員会議で話し合い、サービスに活かしている。 |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) |
| | 家族の面会時に入居者の状況を報告すると共に、毎月ホーム便りを作成し、行事活動や運営推進会議の報告の他に、認知症ケアに関する豆知識を掲載し家族の不安軽減を図っている。家族会では遠方からの参加や意見交換で信頼関係が構築されている。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| 重点項目 | 入居者と職員は、地域の行事や清掃活動と一緒に参加し、地域の中の一員としての役目を果たすよう支援している。又、地域のイベント等ではホームのパンフレットや行事情報を配布し、グループホームの啓発に努めている。年一回は、ホームに近隣の住民を招いてバーベキューをするなど地域との関係作りに取り組んでいる。 |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (<input type="checkbox"/>) E/F) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|--|---|--------------------------------------|----------------------------------|
| . 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 地域のなかでその人らしく暮らすことを支援するための理念を設立時に職員で話し合い、その理念を共有している。 | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念は玄関や事務所に掲示し、パンフレット等にも記載している。職員採用時の研修では、理念について説明し、毎朝の朝礼時には唱和して確認し、理念に基づいた支援に取り組んでいる。 | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域行事への参加、近隣の保育園児や老人会の訪問等が頻繁にあり地域の人との交流に努めている。近隣の清掃や花植え等にも入居者と一緒に参加し地域の一員としての役割を果たしている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 職員は外部評価の意義を理解しており、全職員で自己評価に取り組んだ。日々の生活の中でも常に評価の意義を心得て、実践に取り入れている。 | | |
| 5 | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 定期的に運営推進会議は実施されている。議題は、ホームの理念や行事・活動報告・ターミナルケア等の説明が行われている。委員の構成も多岐に渡っており会議で出た意見は職員会議で話し合い、サービスに活かしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (FPI) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|--|-----------|----------------------------------|
| 6 | 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市の担当職員や包括支援センターとは、電話連絡や出向いて連携を図っている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 入居者の健康状態や日常生活の様子は連絡ノートに記入し家族の面会時に報告している。また担当者が毎月文章にて暮らしぶりを伝えている。状況に変化があった時はその都度連絡をしている。 | | |
| 8 | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関に意見箱を設置したり、家族の面会時に意見を聞くようにしている。家族会では行事計画と一緒に話し合っている。 | | |
| 9 | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員の異動・新規採用者の場合は、馴染みの職員と共にケアにあたり馴染みの関係作りに努めている。休憩時間の確保などに配慮して職員の離職やストレスを緩和する努力をしている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 計画的に外部研修や法人内・グループホームの勉強会が行われている。また報告会等で職員は共有できている。経験年数に応じて資格取得のバックアップもあり職員の育成に向けた取り組みを行っている。 | | |
| 11 | 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 定期的実施されている研修会に管理者をはじめ職員も出席し、他のホームの職員と交流や意見交換を行い、サービスの質の向上に努めている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (F/P) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|---|--|-----------|----------------------------------|
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | <p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> | <p>管理者は入居前に自宅や入院先を訪問し、本人や家族、関わりのある職員と意見交換し本人の状況把握に努めている。ホームの見学等を通して馴染んでもらうような雰囲気づくりをしている。</p> | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | <p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p> | <p>入居者の能力を把握し、発揮できる場面づくりを行っている。料理の味付けを教わったり、傾聴に努め寄り添うケアを心がけている。</p> | | |
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> | <p>入居者の生活歴や日々の会話の中から入居者の意向を把握している。独自の情報シート(「まるごとシート」「私はこうしてもらったら嬉しいシート」)を作成し、全職員が把握できるようにしている。</p> | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> | <p>利用者、家族の意向を基に、担当職員の意見を取り入れ介護計画を作成している。毎月ケアカンファレンスを開催し、職員間で共有している。</p> | | |
| 16 | 37 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> | <p>半年に一度の見直しや、入居者の状況に応じ随時見直しを行っている。介護計画は管理者より家族へ説明を行っている。</p> | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (FPI) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--|----|--|--|-----------|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) | | | | | |
| 17 | 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 入居者や家族の状況に応じた通院やデイサービス、家族と外出する際の送迎等の支援を行っている。又、訪問看護を利用しながら終末期の支援も行っている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居者のかかりつけ医と連携を図り、定期的な受診は職員が同行している。専門科の初診は家族に受診支援をお願いしている。 | | |
| 19 | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 入居時に「看取りに関する指針」を説明している。又、意思確認書作成し、職員間で共有している。 | | |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 個人情報の保護に関しては職員は誓約書に署名し記録等の保管も徹底して行っている。職員会議や朝礼でプライバシーについては、尊厳を持って接するように確認しあっている。 | | |
| 21 | 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 毎日、入居者それぞれの思いや希望を聞き、一人ひとりのペースを尊重した支援を行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (FIP) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|--|---|-----------|----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 配膳・後片付け等は入居者と一緒に行っている。献立は栄養士が入居者の好みや菜園で作った野菜などを取り入れ季節感が味わえようにして立てている。 | | ユニット毎の献立・調理を望みます。検討されては如何でしょう。 |
| 23 | 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 一人ひとりの希望に応じて、ゆっくり入浴できるよう支援している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 入居者の生活歴を把握し、洗濯物たたみ、茶碗拭き、掃除等の役割を持つような支援をおこなっている。 | | |
| 25 | 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 毎日の日課として散歩の他、週に一回は買い物デーとして外出の支援を行っている。近所の保育園に出かけ行事に参加することもある。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 玄関にはセンサーを設置している。職員は施錠の弊害を理解しており、入居者が出られる時は見守り、声かけに配慮した対応を行っている。 | | |
| 27 | 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年に2回、地域の消防団等の協力を得ながら、入居者も参加した非難訓練を行っている。運営推進会議で消防訓練の話をし協力を呼びかけている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (F1) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------|----|---|--|----------|----------------------------------|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | <p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> | <p>栄養士がカロリー計算や栄養バランスやを考慮した献立をたて、食事や水分の摂取量は毎日の記録に記入し、職員が情報を共有している。</p> | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | <p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>食堂には、テーブル、椅子の他、ソファーやも設置しており、ゆったりと過ごせるようになっている。畳のコーナーからは、外の景色を眺めることができ、季節の移り変わりを感じられる。</p> | | |
| 30 | 83 | <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>入居者、家族と相談しながら、使い慣れた筆筒、椅子、ソファー、仏壇等を持ち込み、居心地よく生活できるよう支援している。</p> | | |

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----|
| ・理念に基づく運営 | 22 |
| 1. 理念の共有 | 3 |
| 2. 地域との支えあい | 3 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 5 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 7 |
| 5. 人材の育成と支援 | 4 |
| ・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 10 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 4 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 6 |
| ・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 17 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 3 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 3 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 10 |
| ・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 38 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 30 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 8 |
| ・サービスの成果に関する項目 | 13 |
| 合計 | 100 |

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

| | |
|-----------------|---------------|
| 事業所名 | グループホーム清陽 |
| (ユニット名) | たちばな館 |
| 所在地 (県・市町村名) | 熊本県八代市場町 |
| 記入者名 (管理者) | 松村邦子 |
| 記入日 | 平成 19年 12月 1日 |

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------|---|-------|--|
| . 理念に基づく運営 | | | |
| 1. 理念と共有 | | | |
| 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | | 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。地域の意義や役割を明確に理解し「敬愛の心、感謝の気持ち、謙虚な姿勢」の理念をもとに支援を具体化している。 |
| 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | | 職員一人一人が理念を理解するよう、解説した用紙を配ったり、理念の確認の為に毎日朝礼時に全員で唱和している。職員の新規採用時にもしっかり説明している。 |
| 3 | 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる | | 玄関に掲示し入居相談時、入居時、利用者本人、家族に分かり易く説明している。理念、運営方針はパンフレットに記載し地域との交流の行事の時にはパンフレットを配り理解してもらおうよう取り組んでいる。 |
| 2. 地域との支えあい | | | |
| 4 | 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | | 近隣の方々に威圧感を与えない木造平屋建てで、広々とした庭園には季節の花や木を植えているので、気軽に立ち寄り頂ける開放感のある雰囲気である。子ども達の通学路でもあり、挨拶は笑顔で交わり、又ホームで採れた野菜を近隣の方におすそわけをしたりしている。 |
| 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | | 地域の方々の理解を深める為、地域との連携は必要であり説明と協力依頼を行い、良好な関係を築いている。地域での行事に参加するのは勿論の事、ホームでの行事等にも常に情報をお送りし参加して頂いている。 |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|--|---|-----|----------------------------------|
| 6 | 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 朝から近隣の清掃を行ったり、川辺に紫陽花を植え環境整備に努めている。実習生、ボランティアの方達を受け入れたり、運営推進会議を通し地域の方にカラオケ、折り紙等教えて頂いている。 | | 継続していく。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 評価後、職員全員で会議を開き、改善出来るところから実践し、問題点、改善点を「家族会」でも報告し、取り組んでいる。外部評価、自己評価の意識が常に継続できるよう、日々の生活の中で工夫している。 | | 継続していく。 |
| 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は概ね2ヶ月に1回開き、情報交換、報告を行い、委員の方々にも理解を深めていただけた。会議の後職員会議にて運営推進会議の意見をサービスにどんな風につなげていくな話し合っ、改善、実施出来る事は実行している。 | | 会議の中での意見を受け止めサービスの向上に役立てていきたい。 |
| 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 問題点や疑問点がある時は、市町村に出向いたり、電話連絡をして随時担当者の意見等を聞いている。 | | 積極的に関係作りを行っていく。 |
| 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 研修等に参加し、必要なケースについては、検討を行っている。全職員への普及を図る為に勉強会を行っている。 | | 継続していく。 |
| 11 | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員研修にて、全職員が虐待について意識を持ち、維持するよう話し合っている。又、入浴時等傷やアザがないか観察するよう周知徹底している。言葉かけや精神面でも気を付けている。 | | 職員間で常に話合える環境作りに努めていく。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------|--|--|----------------------------------|
| 4.理念を実践するための体制 | | | |
| 12 | <p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> | <p>疑問点や不安がなく、充分理解し納得してもらうまで、時間をかけて説明し、同意を頂いている。</p> | <p>継続していく。</p> |
| 13 | <p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | <p>利用者と毎日個別に会話し、意見、不満、苦情を聞く機会を設けている。苦情担当を掲示し、いつでも対応できる様にしている。</p> | <p>第三者委員を設けている。</p> |
| 14 | <p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> | <p>急病、緊急時を除いては、利用者の暮らし振りや健康状態などは、個々の連絡ノートに記入し、面会時に説明している。金銭管理については、預かり書を渡し出費がある際は必ず連絡している。些細な変化については、早期の相談と報告に徹している。</p> | <p>継続していく。</p> |
| 15 | <p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | <p>家族等が利用できる意見箱を設けたり、面会時に必ず職員が付いて話し合う機会を設けている。また、「家族会」の際には、どんな些細なことでも相談頂けるように繰り返しお願いしている。</p> | <p>家族等から話易い雰囲気作りをしていく。</p> |
| 16 | <p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> | <p>管理者は職員会議の時だけではなく随時、意見提案を出すように促している。運営者とは月一回の法人全体の会議により機会を設けている。</p> | <p>継続していく。</p> |
| 17 | <p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> | <p>入居者の状況や行動に対応した余裕のある人員数を確保している。また、職員の急病などにも対応できる勤務体制とし、職員同士で話し合い調整している。</p> | <p>継続していく。</p> |
| 18 | <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | <p>職員の異動は必要最小限に止め、馴染みの職員がケアできるよう努めている。また、新規の職員の場合は、馴染みの職員と共に対応するようにしている。</p> | <p>継続していく。</p> |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|--|--|------|----------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | |
| 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ホーム内での勉強会、研修にも職員全員で積極的に参加して、運営者の意向を把握してもらうように努めている。年度始めには、法人内の役職毎の研修を行っている。 | | 継続していく。 |
| 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム部会の実施する研修に職員は積極的に参加し、認知症介護のケアに役立て、他ホーム職員との交流をし意見交換を行っている。 | | 継続していく。 |
| 21 | 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 職員のための個別の休憩時間場所の確保ができています。また、法人全体の職員旅行や忘年会、歓迎会等により、ストレスを軽減してもらうよう取り組んでいる。 | | 運営者は管理者、職員の意見等を聞き対応するようにしている。 |
| 22 | 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 半年に一度個別に目標を設け、自己評価を行い振り返り努力する機会を設けている。運営者は職員の自己評価には全て目を通し一人一人の状況把握に努めている。 | | 継続していく。 |
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | |
| 23 | 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 相談があったら入院先や自宅に本人を訪ね、利用までに数回面談をし、本人の要望を聞く。又、利用しているサービスがあればかわりのある職員に、状況提供を依頼し、本人の要望、状態の把握に努めている。 | | 継続していく。 |
| 24 | 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 家族等の要望を確認する為何度も相談に応じている。グループホームの役割や理念を認識してもらう為に、ホームの見学で生活環境等のチェックをしてもらい、お互いの信頼関係を築くよう心がけている。 | | 継続していく。 |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|--|---|-----|---|
| 25 | 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人と家族の状態状況を見極め、他のサービス機関の情報も提案しながら面談している。満床時、受け入れが困難な場合でも、家族に負担が掛かっていることを考慮し、すぐにも利用できるサービスや施設の紹介に努めている。 | | 継続していく。 |
| 26 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 利用前に数回訪問し、どのようなサービスかを把握して頂けるようにしている。又、本人・家族と相談し、入居前に愛用しておられた布団、イス、タンス等を持ってきて頂き、馴染みのある雰囲気作りに努めている。 | | 継続していく。 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は、利用者の行動に合わせた声かけを行い、洗濯物の干し方や料理の味付け等教えて頂きながら、一緒に作業をすることで、利用者の今まで培ってきた英知を日々学んでいる。又、利用者本位の思いや感情を受け止められるよう、些細な話にも傾聴する姿勢に努め、利用者にとって安心感のある寄り添いを行っている。 | | 継続していく。 |
| 28 | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 面会時に、利用者の生活状況を伝えるのは勿論のこと、毎月すべての家族へ、ホーム内での様子等についての手紙を送付することで、共に利用者を支えていく関係作りに努めている。又、ホームでの夏祭り等の行事にも、家族も参加して楽しんで頂いている。 | | 継続していく。 |
| 29 | 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 利用者と家族の意見を伺って、「まるごとケアシート」を作成し、利用者と家族の関係理解に取り組んでいる。来苑の際は、ゆったりできる居室へ案内し、家族との時間をもうける等、配慮している。又、利用者の誕生会には、家族も参加し、良い関係が深まるよう支援している。 | | 継続していく。 |
| 30 | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ホーム入居前からの行きつけの美容室を、入居後も利用されたり、知人の方へ年賀状を出す等、馴染みの関係を継続できるよう支援している。又、友人・知人の方が家族の同行なしに、気軽に立ち寄り頂けるよう、職員は、気持ちよく笑顔でお迎えし、再度訪問しやすい雰囲気作りに努めている。 | | 利用者・家族だけでなく、知人の方からも、利用者のこれまで関わってきた馴染みの人や場所等を聞き出せる環境支援を工夫する。 |
| 31 | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 利用者一人ひとりの性格を含めた関係を把握した上で、毎日の生活に色々なレクリエーションを取り入れている。職員は、コミュニケーションが取りにくい利用者の中に自然に入り、孤立されないよう寄り添ったケアを行っている。 | | 継続していく。 |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|--|--|-----|----------------------------------|
| 32 | 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 退居後、相談等必要とされる利用者や家族へは、随時、話を聞いたり、助言にて対応している。又、入院している利用者のもとへ出向き、利用者や家族への面会も行っている。 | | 継続していく。 |
| . その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の会話や行動の中で、利用者の希望や意向を汲み取るように心がけている。利用者個別の「私はこちらしてもらったら嬉しいシート」を作成し、全職員が把握できるよう努めている。 | | 継続していく。 |
| 34 | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用者これまでの暮らしぶりをお聞きし、以前の担当ケアマネージャーや家族等に、必ずサービス利用歴を確認している。それらを基に、「まるごとケアシート」の作成を行って、全職員がその人らしい暮らしぶりを把握した上で、ケアに取り組めるよう努めている。 | | 継続していく。 |
| 35 | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 毎朝、利用者のバイタルチェックを行い、記録して、心身の状態を把握している。その人らしく過ごせるように、一日の細やかな行動を知り、出きる事を見つけ出し、出来ないところはさりげなくお手伝いしている。 | | 継続していく。 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 利用者、家族と話し合った上、職員間で月1回のミーティング、ケアカンファレンスを行い、問題点や、解決策を導き出し、介護計画を作成している。 | | 継続していく。 |
| 37 | 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 計画期間についての見直しは勿論のこと、状態に変化が生じた時は、看護師・ケアマネージャーに相談後、本人・家族へ報告し、その都度ケアプランの変更を行っている。 | | 継続していく。 |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------|---|--|-----|----------------------------------|
| 38 | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子・変化・行動等の気づきを、日々の記録を記入し、申し送り帳を利用した情報伝達を全職員で行い、介護計画へ反映させている。離苑や転倒の突発的な事態が生じた場合には、直ちに緊急会議を開き、対策等について話し合いをしている。 | | 情報伝達後のケア実践の強化を行う。 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 極力、本人・家族の要望に答えるよう努めている。病院受診、家族との外出等は、ホーム所有の車で送迎支援を行っている。又、入院している利用者の家族が都合がつかない時は、荷物を届ける等の支援も行っている。 | | 継続していく。 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 民生委員の方々には概ね2ヶ月に1度行っている運営推進会議に参加して頂き、町内の消防団の方々には、ホームの消防訓練に参加して頂く等、地域の方々に協力を得ながら、利用者を支援している。 | | 継続していく。 |
| 41 | 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 言語障害のある方や嚥下状態の悪い方はSTを、ADLについてOT、PTの診察を受け助言をもらい訓練などを行っている。又、急性増悪により医療の必要な方は訪問看護も利用している。 | | 本人・家族の要望や必要性がある場合は随時検討していく。 |
| 42 | 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 法人全体の会議のときにも出席してもらい必要な方は状態を検討し、ケアマネジメントについて広い視野で助言をもらっている。 | | 継続していく。 |
| 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者の以前からのかかりつけ医と連携し、状態など密に連絡を取り合って対応している。又、利用者の病状に応じ、いつでも往診可能な体制にしている。 | | 継続していく。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|--|-----|----------------------------------|
| 44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | 認知症の専門医に協力病院となってもらい、相談して必要な時は受診し、治療・助言してもらっている。 | | 定期的な受診を継続して利用者の認知症の経過を把握していく。 |
| 45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 看護師が常勤し常に利用者の身体状態を把握し、又、介護から異常を発見したら、報告を受け24時間連絡を取れる体制をとっている。 | | 継続していく。 |
| 46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 常に病院へ出向き症状を把握して、電話でも家族へ聞いたりし情報収集している。又、医師と家族の話し合いに同席し早期退院に向け準備している。普段から医療機関と連携を取るようになっている。 | | 継続していく。 |
| 47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 本人・家族・かかりつけ医と一緒に話し合いスタッフに周知徹底している。又、意思確認書を書いてもらいカルテに綴じ全員が確認できるようにしている。 | | 家族と共に過ごす時間を多く作るように支援し家族に理解して頂く。 |
| 48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | 本人・家族が希望される事は対応している。又、職員全員で経験を通じて反省点を共有しその人らしく過ごしていただけるようかかりつけ医と密に連携を取っている。 | | 継続していく。 |
| 49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 退居の際は退居先の関係者と話し合いを持つことはもちろん、退居後も顔を出したりして状態の確認をしている。 | | 継続していく。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|--|---|---|
| .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | |
| 50 | <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> | <p>利用者一人一人を尊重し、言葉使いや対応を常に気をつけ、又、朝礼や職員会議などで確認し合っている。誓約書に職員が署名し個人情報の保護を徹底し、記録等も事務所に保管している。</p> | <p>継続していく。</p> |
| 51 | <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> | <p>利用者のペースに合わせ同じ目線で話をし緊張をほぐし話しやすいよう柔らかい声で、ジェスチャーを交えて働きかけている。</p> | <p>継続していく。</p> |
| 52 | <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> | <p>利用者個人個人のペースを把握した上で、毎日意思確認をし、ケアしている。入居者の思いや希望を尊重している為、食事・入浴等は利用者によって異なる時間帯となっている。</p> | <p>本人のしたい事としたいけれども出来ない事を、充分把握しどこまで支援できるか検討し職員全員で検討していきたい。</p> |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 53 | <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> | <p>服装に関してはまず利用者に決めてもらっているが、支援が必要な方については毎回意思確認している。髪形については本人や家族の希望を聞いて行っている。又、行きつけの美容室に家族と行かれる利用者もいらっしゃる。入浴後のお肌のお手入れや気分の良いときにはお化粧される利用者の支援もしている。</p> | <p>継続していく。</p> |
| 54 | <p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> | <p>食器の準備や後片付けは、利用者の役割とし職員と一緒にしている。可能な限り買物や調理も一緒に行い、その他にも見て楽しんでいただけるよう、季節の物を揃えたり好みを把握して献立や調理に生かしている。</p> | <p>職員と一緒に食事を摂る事で、楽しい雰囲気の中で利用者の会話を引き出せるよう心掛けている。</p> |
| 55 | <p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> | <p>利用者が要求される物等、職員と一緒に出かけ購入し、好みの食べ物についても嗜好調査を行い把握して献立に加える。又、本人の嗜好品に合わせた個別メニューを取り入れ日常生活にアクセントをつけるようにしている。</p> | <p>継続していく。</p> |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|---|--|-----|------------------------------------|
| 56 | 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 利用者の排泄パターンを把握しトイレへ案内している。昼間はトイレを活用し、夜間はオムツ、ポータブルトイレ希望の利用者以外は、トイレに案内している。顔色を覗いながらその都度、場所を工夫し声の大きさを加減しながら案内している。 | | トイレでの排泄の習慣化を強化していく。 |
| 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 利用者の希望に合わせて入浴することが出来る。ゆっくり入浴して頂く為に入浴時間については、利用者一人一人の希望や状態に合わせている。 | | 入浴による羞恥心や不安、恐怖心を軽減する工夫や配慮の強化をしていく。 |
| 58 | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 昼間の活動が夜間の安眠につながるという考えの下で、散歩したり保育園児と交流をしたりして、生活リズムの確立を図っている。夜間不安定にて落ち着かれない利用者については、寄り添うケアを念頭におき取り組んでいる。 | | 継続していく。 |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 利用者が本人の役割として洗濯物をたたまれたり、茶碗拭きや掃除機をかけたり、調理の出来上がりの際は利用者が味見をしてくださる。反面、それが利用者の負担にならないように配慮している。 | | 継続していく。 |
| 60 | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 事務所に管理している利用者、本人が管理している方に別れている。事務所預かりの利用者も買物の時は、本人が支払いするよう支援している。 | | 継続していく。 |
| 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 買物や近所の散歩は毎日の日課であり、保育園へは交流を目的に出かけて行事等にも積極的に参加している。 | | 短時間でも戸外に出るよう支援していく。 |
| 62 | 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 家族と自宅にて過ごされたり温泉などに外出される際は、健康状態の伝達や外出時の準備を利用者と一緒に行う等、楽しんで頂けるよう支援している。企画委員により季節毎に外出計画等を行っている。 | | 継続していく。 |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|--|--|------|--|
| 63 | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人からの要望時は、いつでも家族へお電話出来るよう支援し、又、コードレスの電話を使用して、居室にて話しやすい雰囲気作りをしている。手紙や年賀状等のやり取りも支援している。 | | 家族と連携を取り、利用者が不安な時は電話で声を聞いて、安心して頂けるようにしている。 |
| 64 | 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | 家族がいつでも宿泊して頂けるように、布団等を準備している。職員は笑顔でお迎えしお帰りの際は、必ず利用者と一緒にお見送りをしている。 | | 継続していく。 |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 外部研修や内部研修にて職員全員で確認し合い、話し合う事で理解を深める様にしている。 | | 継続していく。 |
| 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 玄関にセンサーを設置しており、人の出入りは確認出来るので鍵はかけていない。就寝前の鍵の確認は、役割となつていらっしゃる利用者と職員で行っている。 | | 継続していく。 |
| 67 | 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 何をするにも利用者の傍らでの作業に取り組んでいる。対面式の台所、玄関横の事務所は、常に利用者から見て、確認できる位置に職員が居るよう心がけている。 | | 継続していく。 |
| 68 | 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 注意が必要な物品は、常に職員の管理出来る場所に保管している。包丁等の刃物類については、流し台の下の鍵のかかる場所に保管している。 | | 継続していく。 |
| 69 | 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 全職員が、誤嚥の可能性のある利用者を把握している。緊急時対応マニュアルを、すぐ活用できるよう保管場所の確認を徹底し、対策方法の知識を学んでいる。又、事故に繋がるようなことが起きた際は「ひやりはっと事故記録」を作成し、会議を行って、再発防止に努めている。 | | 継続していく。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|---|--|------|--------------------------------------|
| 70 | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 同法人で行われた救命救急の技術研修を受け、参加できなかった職員に対しても、ミーティングにて再度勉強会を開き、全職員が緊急時に適切な対応ができるよう努めている。又、緊急時対応マニュアルを作成し、看護師の指導の下、定期的に訓練を行っている。 | | 定期的にマニュアルを見直す機会を作り、職員の更なる技術向上に繋げていく。 |
| 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年に二回、地元の消防団、消防署の協力の下、消防訓練を行っており、緊急時には、地域ぐるみで災害に備えている。 | | 地震、水害時の訓練が不十分なので、今後定期的に訓練を行っていく。 |
| 72 | リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている | 家族との密な連携をとることで、情報交換、対応策を決めている。職員間で話し合ったリスク対応策は、必ず家族へ説明し、了解を得た後、対応している。 | | 継続していく。 |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 毎朝、必ずバイタルチェックを行い、一人ひとりの体調管理に努めている。変化が見られる場合は、直ちに看護師に相談し、必要時は、病院受診や往診を行っている。 | | 継続していく。 |
| 74 | 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 一人ひとりの薬の服用方については、全職員が対応できるよう、薬剤情報ノートを活用し、把握している。利用者の身体状態に変化のある場合は、かかりつけ医に相談し、指示を頂いている。 | | 継続して行く。 |
| 75 | 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 栄養士の指導の下、便秘予防と対応について職員研修を行っている。日々の便秘予防として、乳製品の摂取や、トイレに座る習慣が出来るような環境作り、腹部マッサージや、細めに水分補給を行っている。又、適度な運動(ラジオ体操)も取り入れ、支援している。 | | 継続していく。 |
| 76 | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 毎食後、必ず口腔ケアの支援を行っている。うがいのできない方は、イソジンで口腔内清拭をし、対応している。又、義歯洗浄剤を使用し、口臭が気にならないよう配慮している。 | | 定期的な歯科往診を行う。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|--|---|------|----------------------------------|
| 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養士の下、カロリー計算された食事を、一人ひとりに合わせた形態にし、提供している。食事・水分摂取量は、毎食後、チェックシートに記入し、一日のトータル量の確保を把握している。 | | 継続していく。 |
| 78 | 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | 職員、入居者の手洗いを徹底し、毎年インフルエンザの予防接種を受けている。又、全職員が、ホーム作成の感染症マニュアルについて学び、把握している。 | | 定期的に見直し、確認を行う。 |
| 79 | 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | まな板、食器類の漂白、熱殺菌消毒を行っている。冷蔵庫内の掃除、消毒も行い、食材が残らないよう配慮している。食材の消費期限についても、細めにチェックするようにしている。 | | 継続していく。 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 事故防止のため、玄関の配置が道路ではなく、中庭に面している。そのため、季節の花ばなを身近に感じることも出来、親しみもてる環境である。又、周囲の環境と調和がとれるよう、周りは垣根になっている。 | | 継続していく。 |
| 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホーム全体が、木の温もりと香りの感じられる建物である。食堂は、中にゆったり座れるようソファを置いたり、居室や居間に面した窓から西日が入らないよう樹木を植え、くつろげる空間作りを行っている。又、展示物や花などで、季節感がでるよう、配慮している。 | | 継続していく。 |
| 82 | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 一人ひとりの居場所として、食堂は、ソファやテーブルの配置に気を配り、気の合う利用者と集えるよう談話室の畳部屋を設けている。 | | 継続していく。 |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|--|--|-----|----------------------------------|
| 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に利用者、家族の要望を伺い、本人が使い慣れた馴染みの物を持ち込んで頂けるよう配慮している。家族写真を飾ったり、仏壇を置き、毎日供養している利用者もいる。 | | 継続していく。 |
| 84 | 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 食堂、廊下、居室と、定期的に窓を開けて換気を行っている。トイレは使用后、外気にあてるようにしている。又、エアコンを使用する際は、利用者の身体状態に合わせて、共用スペース、自室の温度を調整している。 | | 継続していく。 |
| (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 玄関、廊下、食堂等ホーム内全周にわたり、独歩の利用者が行き来しやすいよう手すりを設置している。トイレ、浴室にも設置しており、自立した生活が送れるよう工夫している。 | | 継続していく。 |
| 86 | わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | ケアカンファレンスにて問題点を検討し、利用者の混乱、失敗を最小限に防げるよう努めている。お手洗い、浴室、居室には、車椅子利用の利用者にも見やすいよう、目線を合わせて表札を設置している。 | | 継続していく。 |
| 87 | 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 園庭の芝生にて昼食会を開いたり、楽しみながら活動できる環境作りに努めている。家庭菜園や花壇を設け、利用者の活動意欲を引き出す工夫も行っている。苑庭の芝生は、近隣の保育園の遊び場としても提供しており、気軽に園児と利用者が交流できる場となっている。 | | 継続していく。 |

・サービスの成果に関する項目

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に をつけてください。 | |
|-----|--|-----------------------|-------------|
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | | ほぼ全ての利用者の |
| | | | 利用者の2/3くらいの |
| | | | 利用者の1/3くらいの |
| | | | ほとんど掴んでいない |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | | 毎日ある |
| | | | 数日に1回程度ある |
| | | | たまにある |
| | | | ほとんどない |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | | ほぼ全ての利用者が |
| | | | 利用者の2/3くらいが |
| | | | 利用者の1/3くらいが |
| | | | ほとんどいない |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | | ほぼ全ての利用者が |
| | | | 利用者の2/3くらいが |
| | | | 利用者の1/3くらいが |
| | | | ほとんどいない |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | | ほぼ全ての利用者が |
| | | | 利用者の2/3くらいが |
| | | | 利用者の1/3くらいが |
| | | | ほとんどいない |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | | ほぼ全ての利用者が |
| | | | 利用者の2/3くらいが |
| | | | 利用者の1/3くらいが |
| | | | ほとんどいない |
| 94 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている | | ほぼ全ての利用者が |
| | | | 利用者の2/3くらいが |
| | | | 利用者の1/3くらいが |
| | | | ほとんどいない |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | | ほぼ全ての家族と |
| | | | 家族の2/3くらいと |
| | | | 家族の1/3くらいと |
| | | | ほとんどできていない |

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に をつけてください。 | |
|-----|---|-----------------------|-------------|
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | | ほぼ毎日のように |
| | | | 数日に1回程度 |
| | | | たまに |
| | | | ほとんどない |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | | 大いに増えている |
| | | | 少しずつ増えている |
| | | | あまり増えていない |
| | | | 全くいない |
| 98 | 職員は、生き活きと働けている | | ほぼ全ての職員が |
| | | | 職員の2/3くらいが |
| | | | 職員の1/3くらいが |
| | | | ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | | ほぼ全ての利用者が |
| | | | 利用者の2/3くらいが |
| | | | 利用者の1/3くらいが |
| | | | ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | | ほぼ全ての家族等が |
| | | | 家族等の2/3くらいが |
| | | | 家族等の1/3くらいが |
| | | | ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者とスタッフ間で、いつも優しい言葉かけが自然と交わされ、多くの家族が、毎週気軽に面会にいらしている。地域の方が訪れると、職員だけでなく利用者も、笑顔で声かけされ、和やかで親しみのあるホーム環境である。職員は、生活全般を利用者が主体となって取り組んでいけるよう、認知症ケアに関する研修等に熱心に参加、学習しており、コミュニケーション障害があっても、利用者の行動・言動の有意義性を大切にしたい、安心感のある寄り添うケアを心がけ、皆が笑顔で過ごせる環境作りに努めている。又、地域あつてのグループホームという事を念頭に置き、地域での美化活動には積極的に参加している。これにより、利用者や職員と、地域住民の触れ合いを作り、信頼関係を築いている。そして、自然が豊富な土地柄を活かし、家庭菜園や畑で作った野菜を、利用者と一緒に料理し、味わうのは勿論のこと、近隣の住民とやりとりを行っている。保育園の園児とも、ハロウィンやそうめん流し等、交流も活発である。これからも開かれたグループホームとして、地域の中に根付き、貢献していきたい。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----|
| ・理念に基づく運営 | 22 |
| 1. 理念の共有 | 3 |
| 2. 地域との支えあい | 3 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 5 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 7 |
| 5. 人材の育成と支援 | 4 |
| ・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 10 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 4 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 6 |
| ・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 17 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 3 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 3 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 10 |
| ・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 38 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 30 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 8 |
| ・サービスの成果に関する項目 | 13 |
| 合計 | 100 |

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

| | |
|-----------------|---------------|
| 事業所名 | グループホーム清陽 |
| (ユニット名) | みずほ館 |
| 所在地 (県・市町村名) | 熊本県八代市場町 |
| 記入者名 (管理者) | 岩崎ひとみ |
| 記入日 | 平成 19年 12月 1日 |

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------|---|-------|--|
| . 理念に基づく運営 | | | |
| 1. 理念と共有 | | | |
| 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | | 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。地域の意義や役割を明確に理解し「敬愛の心、感謝の気持ち、謙虚な姿勢」の理念をもとに支援を具体化している。 |
| 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | | 職員一人一人が理念を理解するよう、解説した用紙を配ったり、理念の確認の為に毎日朝礼時に全員で唱和している。職員の新規採用時にもしっかり説明している。 |
| 3 | 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる | | 玄関に掲示し入居相談時、入居時、利用者本人、家族に分かり易く説明している。理念、運営方針はパンフレットに記載し地域との交流の行事の時にはパンフレットを配り理解してもらおうよう取り組んでいる。 |
| 2. 地域との支えあい | | | |
| 4 | 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | | 近隣の方々に威圧感を与えない木造平屋建てで、広々とした庭園には季節の花や木を植えているので、気軽に立ち寄り頂ける開放感のある雰囲気である。子ども達の通学路でもあり、挨拶は笑顔で交わり、又ホームで採れた野菜を近隣の方におすそわけをしたりしている。 |
| 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | | 地域の方々の理解を深める為、地域との連携は必要であり説明と協力依頼を行い、良好な関係を築いている。地域での行事に参加するのは勿論の事、ホームでの行事等にも常に情報をお送りし参加して頂いている。 |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|--|---|-----|----------------------------------|
| 6 | 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 朝から近隣の清掃を行ったり、川辺に紫陽花を植え環境整備に努めている。実習生、ボランティアの方達を受け入れたり、運営推進会議を通し地域の方にカラオケ、折り紙等教えて頂いている。 | | 継続していく。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 評価後、職員全員で会議を開き、改善出来るところから実践し、問題点、改善点を「家族会」でも報告し、取り組んでいる。外部評価、自己評価の意識が常に継続できるよう、日々の生活の中で工夫している。 | | 継続していく。 |
| 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は概ね2ヶ月に1回開き、情報交換、報告を行い、委員の方々にも理解を深めていただけた。会議の後職員会議にて運営推進会議の意見をサービスにどんな風につなげていくな話し合っ、改善、実施出来る事は実行している。 | | 会議の中での意見を受け止めサービスの向上に役立てていきたい。 |
| 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 問題点や疑問点がある時は、市町村に出向いたり、電話連絡をして随時担当者の意見等を聞いている。 | | 積極的に関係作りを行っていく。 |
| 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 研修等に参加し、必要なケースについては、検討を行っている。全職員への普及を図る為に勉強会を行っている。 | | 継続していく。 |
| 11 | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員研修にて、全職員が虐待について意識を持ち、維持するよう話し合っている。又、入浴時等傷やアザがないか観察するよう周知徹底している。言葉かけや精神面でも気を付けている。 | | 職員間で常に話合える環境作りに努めていく。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------|--|--|----------------------------------|
| 4.理念を実践するための体制 | | | |
| 12 | <p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> | <p>疑問点や不安がなく、充分理解し納得してもらうまで、時間をかけて説明し、同意を頂いている。</p> | <p>継続していく。</p> |
| 13 | <p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | <p>利用者と毎日個別に会話し、意見、不満、苦情を聞く機会を設けている。苦情担当を掲示し、いつでも対応できる様にしている。</p> | <p>第三者委員を設けている。</p> |
| 14 | <p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> | <p>急病、緊急時を除いては、利用者の暮らし振りや健康状態などは、個々の連絡ノートに記入し、面会時に説明している。金銭管理については、預かり書を渡し出費がある際は必ず連絡している。些細な変化については、早期の相談と報告に徹している。</p> | <p>継続していく。</p> |
| 15 | <p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | <p>家族等が利用できる意見箱を設けたり、面会時に必ず職員が付いて話し合う機会を設けている。また、「家族会」の際には、どんな些細なことでも相談頂けるように繰り返しお願いしている。</p> | <p>家族等から話易い雰囲気作りをしていく。</p> |
| 16 | <p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> | <p>管理者は職員会議の時だけではなく随時、意見提案を出すように促している。運営者とは月一回の法人全体の会議により機会を設けている。</p> | <p>継続していく。</p> |
| 17 | <p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> | <p>入居者の状況や行動に対応した余裕のある人員数を確保している。また、職員の急病などにも対応できる勤務体制とし、職員同士で話し合い調整している。</p> | <p>継続していく。</p> |
| 18 | <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | <p>職員の異動は必要最小限に止め、馴染みの職員がケアできるよう努めている。また、新規の職員の場合は、馴染みの職員と共に対応するようにしている。</p> | <p>継続していく。</p> |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|--|--|------|----------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | |
| 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ホーム内での勉強会、研修にも職員全員で積極的に参加して、運営者の意向を把握してもらうように努めている。年度始めには、法人内の役職毎の研修を行っている。 | | 継続していく。 |
| 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム部会の実施する研修に職員は積極的に参加し、認知症介護のケアに役立て、他ホーム職員との交流をし意見交換を行っている。 | | 継続していく。 |
| 21 | 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 職員のための個別の休憩時間場所の確保ができています。また、法人全体の職員旅行や忘年会、歓迎会等により、ストレスを軽減してもらうよう取り組んでいる。 | | 運営者は管理者、職員の意見等を聞き対応するようにしている。 |
| 22 | 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 半年に一度個別に目標を設け、自己評価を行い振り返り努力する機会を設けている。運営者は職員の自己評価には全て目を通し一人一人の状況把握に努めている。 | | 継続していく。 |
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | |
| 23 | 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 相談があったら入院先や自宅に本人を訪ね、利用までに数回面談をし、本人の要望を聞く。又、利用しているサービスがあればかわりのある職員に、状況提供を依頼し、本人の要望、状態の把握に努めている。 | | 継続していく。 |
| 24 | 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 家族等の要望を確認する為何度も相談に応じている。グループホームの役割や理念を認識してもらう為に、ホームの見学で生活環境等のチェックをしてもらい、お互いの信頼関係を築くよう心がけている。 | | 継続していく。 |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|--|---|-----|---|
| 25 | 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人と家族の状態状況を見極め、他のサービス機関の情報も提案しながら面談している。満床時、受け入れが困難な場合でも、家族に負担が掛かっていることを考慮し、すぐにも利用できるサービスや施設の紹介に努めている。 | | 継続していく。 |
| 26 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 利用前に数回訪問し、どのようなサービスかを把握して頂けるようにしている。又、本人・家族と相談し、入居前に愛用しておられた布団、イス、タンス等を持ってきて頂き、馴染みのある雰囲気作りに努めている。 | | 継続していく。 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は、利用者の行動に合わせた声かけを行い、洗濯物の干し方や料理の味付け等教えて頂きながら、一緒に作業をすることで、利用者の今まで培ってきた英知を日々学んでいる。又、利用者本位の思いや感情を受け止められるよう、些細な話にも傾聴する姿勢に努め、利用者にとって安心感のある寄り添いを行っている。 | | 継続していく。 |
| 28 | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 面会時に、利用者の生活状況を伝えるのは勿論のこと、毎月すべての家族へ、ホーム内での様子等についての手紙を送付することで、共に利用者を支えていく関係作りに努めている。又、ホームでの夏祭り等の行事にも、家族も参加して楽しんで頂いている。 | | 継続していく。 |
| 29 | 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 利用者と家族の意見を伺って、「まるごとケアシート」を作成し、利用者と家族の関係理解に取り組んでいる。来苑の際は、ゆったりできる居室へ案内し、家族との時間をもうける等、配慮している。又、利用者の誕生会には、家族も参加し、良い関係が深まるよう支援している。 | | 継続していく。 |
| 30 | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ホーム入居前からの行きつけの美容室を、入居後も利用されたり、知人の方へ年賀状を出す等、馴染みの関係を継続できるよう支援している。又、友人・知人の方が家族の同行なしに、気軽に立ち寄り頂けるよう、職員は、気持ちよく笑顔でお迎えし、再度訪問しやすい雰囲気作りに努めている。 | | 利用者・家族だけでなく、知人の方からも、利用者のこれまで関わってきた馴染みの人や場所等を聞き出せる環境支援を工夫する。 |
| 31 | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 利用者一人ひとりの性格を含めた関係を把握した上で、毎日の生活に色々なレクリエーションを取り入れている。職員は、コミュニケーションが取りにくい利用者の中に自然に入り、孤立されないよう寄り添ったケアを行っている。 | | 継続していく。 |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|--|--|-----|----------------------------------|
| 32 | 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 退居後、相談等必要とされる利用者や家族へは、随時、話を聞いたり、助言にて対応している。又、入院している利用者のもとへ出向き、利用者や家族への面会も行っている。 | | 継続していく。 |
| . その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の会話や行動の中で、利用者の希望や意向を汲み取るように心がけている。利用者個別の「私はこちらしてもらったら嬉しいシート」を作成し、全職員が把握できるよう努めている。 | | 継続していく。 |
| 34 | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用者これまでの暮らしぶりをお聞きし、以前の担当ケアマネージャーや家族等に、必ずサービス利用歴を確認している。それらを基に、「まるごとケアシート」の作成を行って、全職員がその人らしい暮らしぶりを把握した上で、ケアに取り組めるよう努めている。 | | 継続していく。 |
| 35 | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 毎朝、利用者のバイタルチェックを行い、記録して、心身の状態を把握している。その人らしく過ごせるように、一日の細やかな行動を知り、出きる事を見つけ出し、出来ないところはさりげなくお手伝いしている。 | | 継続していく。 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 利用者、家族と話し合った上、職員間で月1回のミーティング、ケアカンファレンスを行い、問題点や、解決策を導き出し、介護計画を作成している。 | | 継続していく。 |
| 37 | 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 計画期間についての見直しは勿論のこと、状態に変化が生じた時は、看護師・ケアマネージャーに相談後、本人・家族へ報告し、その都度ケアプランの変更を行っている。 | | 継続していく。 |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------|---|--|-----|----------------------------------|
| 38 | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子・変化・行動等の気づきを、日々の記録に記入し、申し送り帳を利用した情報伝達を全職員で行い、介護計画へ反映させている。離苑や転倒の突発的な事態が生じた場合には、直ちに緊急会議を開き、対策等について話し合いをしている。 | | 情報伝達後のケア実践の強化を行う。 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 極力、本人・家族の要望に答えるよう努めている。入院している利用者の家族へも、家族の都合のつかない時は、荷物を届ける等、支援を行っている。 | | 継続していく。 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 民生委員の方には、2ヶ月に1度行っている運営推進会議に参加して頂き、町内の消防団の方には、ホームの消防訓練に参加して頂く等、地域の方々に協力を得ながら、利用者支援している。 | | 継続していく。 |
| 41 | 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 言語障害のある方や嚥下状態の悪い方はSTを、ADLについてOT、PTの診察を受け、助言をもらい訓練などを行っている。又、急性増悪により、医療の必要な方は訪問看護も利用している。 | | 本人・家族の要望や必要性がある場合は、随時検討していく。 |
| 42 | 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 法人全体の会議時、センター職員に毎回出席してもらい、一人ひとりの状態を検討し、ケアマネジメントについて広い視野で助言をしてもらっている。 | | 継続していく。 |
| 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者の以前からのかかりつけ医と連携し、状態など密に連絡を取り合って対応している。又、利用者の状態に応じ、いつでも往診可能な体制を確保し支援している。 | | 継続していく。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|--|------|----------------------------------|
| 44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | 認知症の専門医に協力病院となってもらい、相談して必要な時は受診し、治療・助言してもらっている。 | | 定期的な受診を継続して利用者の認知症の経過を把握していく。 |
| 45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 看護師が常勤し常に利用者の身体状態を把握し、又、介護から異常を発見したら、報告を受け24時間連絡を取れる体制をとっている。 | | 継続していく。 |
| 46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 常に病院へ出向き症状を把握して、電話でも家族へ聞いたりし情報収集している。又、医師と家族の話し合いに同席し早期退院に向け準備している。普段から医療機関と連携を取るようになっている。 | | 継続していく。 |
| 47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 本人・家族・かかりつけ医と一緒に話し合いスタッフに周知徹底している。又、意思確認書を書いてもらいカルテに綴じ全員が確認できるようにしている。 | | 家族と共に過ごす時間を多く作るように支援し家族に理解して頂く。 |
| 48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | 本人・家族が希望される事に対応している。又、職員全員で経験を通じて反省点を共有しその人らしく過ごしていただけるようかかりつけ医と密に連携を取っている。 | | 継続していく。 |
| 49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 退居の際は退居先の関係者と話し合いを持つことはもちろん、退居後も顔を出したりして状態の確認をしている。 | | 継続していく。 |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|--|--|---|
| .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | |
| 50 | <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> | <p>利用者一人一人を尊重し、言葉使いや対応を常に気をつけ、又、朝礼や職員会議などで確認し合っている。誓約書に職員が署名し個人情報の保護を徹底し、記録等も事務所に保管している。</p> | <p>継続していく。</p> |
| 51 | <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> | <p>利用者のペースに合わせ同じ目線で話をし緊張をほぐし話しやすいよう柔らかい声で、ジェスチャーを交えて働きかけている。</p> | <p>継続していく。</p> |
| 52 | <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> | <p>利用者個人個人のペースを把握した上で、毎日意思確認をし、ケアしている。入居者の思いや希望を尊重している為、食事・入浴等は利用者によって異なる時間帯となっている。</p> | <p>本人のしたい事としたいけれども出来ない事を、充分把握しどこまで支援できるか検討し職員全員で検討していきたい。</p> |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 53 | <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> | <p>服装に関してはまず利用者によって決めているが、支援が必要な方については毎回意思確認している。髪形については本人や家族の希望を聞いて行っている。又、行きつけの美容室に家族と行かれる利用者もいらっしゃる。入浴後のお肌のお手入れや気分の良いときにはお化粧される利用者の支援もしている。</p> | <p>継続していく。</p> |
| 54 | <p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> | <p>食器の準備や後片付けは、利用者の役割とし職員と一緒にしている。可能な限り買物や調理も一緒に行い、その他にも見て楽しんでいただけるよう、季節の物を揃えたり好みを把握して献立や調理に生かしている。</p> | <p>職員と一緒に食事を摂る事で、楽しい雰囲気の中で利用者の会話を引き出せるよう心掛けている。</p> |
| 55 | <p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> | <p>利用者が要求される物等、職員と一緒に出かけ購入し、好みの食べ物についても嗜好調査を行い把握して献立に加える。又、本人の嗜好品に合わせた個別メニューを取り入れ日常生活にアクセントをつけるようにしている。</p> | <p>継続していく。</p> |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|---|--|------|------------------------------------|
| 56 | 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 利用者の排泄パターンを把握しトイレへ案内している。昼間はトイレを活用し、夜間はオムツ、ポータブルトイレ希望の利用者以外は、トイレに案内している。顔色を覗いながらその都度、場所を工夫し声の大きさを加減しながら案内している。 | | トイレでの排泄の習慣化を強化していく。 |
| 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 利用者の希望に合わせて入浴することが出来る。ゆっくり入浴して頂く為に入浴時間については、利用者一人一人の希望や状態に合わせている。 | | 入浴による羞恥心や不安、恐怖心を軽減する工夫や配慮の強化をしていく。 |
| 58 | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 昼間の活動が夜間の安眠につながるという考えの下で、散歩したり保育園児と交流をしたりして、生活リズムの確立を図っている。夜間不安定にて落ち着かれない利用者については、寄り添うケアを念頭におき取り組んでいる。 | | 継続していく。 |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 利用者が本人の役割として洗濯物をたたまれたり、茶碗拭きや掃除機をかけたり、調理の出来上がりの際は利用者が味見をしてくださる。反面、それが利用者の負担にならないように配慮している。 | | 継続していく。 |
| 60 | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 事務所に管理している利用者、本人が管理している方に別れている。事務所預かりの利用者も買物の時は、本人が支払いするよう支援している。 | | 継続していく。 |
| 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 買物や近所の散歩は毎日の日課であり、保育園へは交流を目的に出かけて行事等にも積極的に参加している。 | | 短時間でも戸外に出るよう支援していく。 |
| 62 | 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 家族と自宅にて過ごされたり温泉などに外出される際は、健康状態の伝達や外出時の準備を利用者と一緒に行う等、楽しんで頂けるよう支援している。企画委員により季節毎に外出計画等を行っている。 | | 継続していく。 |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|--|--|------|--|
| 63 | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人からの要望時は、いつでも家族へお電話出来るよう支援し、又、コードレスの電話を使用して、居室にて話しやすい雰囲気作りをしている。手紙や年賀状等のやり取りも支援している。 | | 家族と連携を取り、利用者が不安な時は電話で声を聞いて、安心して頂けるようにしている。 |
| 64 | 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | 家族がいつでも宿泊して頂けるように、布団等を準備している。職員は笑顔でお迎えしお帰りの際は、必ず利用者と一緒にお見送りをしている。 | | 継続していく。 |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 外部研修や内部研修にて職員全員で確認し合い、話し合う事で理解を深める様にしている。 | | 継続していく。 |
| 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 玄関にセンサーを設置しており、人の出入りは確認出来るので鍵はかけていない。就寝前の鍵の確認は、役割となつていらっしゃる利用者と職員で行っている。 | | 継続していく。 |
| 67 | 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 何をするにも利用者の傍らでの作業に取り組んでいる。対面式の台所、玄関横の事務所は、常に利用者から見て、確認できる位置に職員が居るよう心がけている。 | | 継続していく。 |
| 68 | 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 注意が必要な物品は、常に職員の管理出来る場所に保管している。包丁等の刃物類については、流し台の下の鍵のかかる場所に保管している。 | | 継続していく。 |
| 69 | 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 全職員が、誤嚥の可能性のある利用者を把握している。緊急時対応マニュアルを、すぐ活用できるよう保管場所の確認を徹底し、対策方法の知識を学んでいる。又、事故に繋がるようなことが起きた際は「ひやりはっと事故記録」を作成し、会議を行って、再発防止に努めている。 | | 継続していく。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|---|--|------|--------------------------------------|
| 70 | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 同法人で行われた救命救急の技術研修を受け、参加できなかった職員に対しても、ミーティングにて再度勉強会を開き、全職員が緊急時に適切な対応ができるよう努めている。又、緊急時対応マニュアルを作成し、看護師の指導の下、定期的に訓練を行っている。 | | 定期的にマニュアルを見直す機会を作り、職員の更なる技術向上に繋げていく。 |
| 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年に二回、地元の消防団、消防署の協力の下、消防訓練を行っており、緊急時には、地域ぐるみで災害に備えている。 | | 地震、水害時の訓練が不十分なので、今後定期的に訓練を行っていく。 |
| 72 | リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている | 家族との密な連携をとることで、情報交換、対応策を決めている。職員間で話し合ったリスク対応策は、必ず家族へ説明し、了解を得た後、対応している。 | | 継続していく。 |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 毎朝、必ずバイタルチェックを行い、一人ひとりの体調管理に努めている。変化が見られる場合は、直ちに看護師に相談し、必要時は、病院受診や往診を行っている。 | | 継続していく。 |
| 74 | 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 一人ひとりの薬の服用方については、全職員が対応できるよう、薬剤情報ノートを活用し、把握している。利用者の身体状態に変化のある場合は、かかりつけ医に相談し、指示を頂いている。 | | 継続して行く。 |
| 75 | 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 栄養士の指導の下、便秘予防と対応について職員研修を行っている。日々の便秘予防として、乳製品の摂取や、トイレに座る習慣が出来るような環境作り、腹部マッサージや、細めに水分補給を行っている。又、適度な運動(ラジオ体操)も取り入れ、支援している。 | | 継続していく。 |
| 76 | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 毎食後、必ず口腔ケアの支援を行っている。うがいのできない方は、イソジンで口腔内清拭をし、対応している。又、義歯洗浄剤を使用し、口臭が気にならないよう配慮している。 | | 定期的な歯科往診を行う。 |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|--|---|-----|----------------------------------|
| 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養士の下、カロリー計算された食事を、一人ひとりに合わせた形態にし、提供している。食事・水分摂取量は、毎食後、チェックシートに記入し、一日のトータル量の確保を把握している。 | | 継続していく。 |
| 78 | 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | 職員、入居者の手洗いを徹底し、毎年インフルエンザの予防接種を受けている。又、全職員が、ホーム作成の感染症マニュアルについて学び、把握している。 | | 定期的に見直し、確認を行う。 |
| 79 | 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | まな板、食器類の漂白、熱殺菌消毒を行っている。冷蔵庫内の掃除、消毒も行い、食材が残らないよう配慮している。食材の消費期限についても、細めにチェックするようにしている。 | | 継続していく。 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 事故防止のため、玄関の配置が道路ではなく、中庭に面している。そのため、季節の花ばなを身近に感じることも出来、親しみもてる環境である。又、周囲の環境と調和がとれるよう、周りは垣根になっている。 | | 継続していく。 |
| 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホーム全体が、木の温もりと香りの感じられる建物である。食堂は、中にゆったり座れるようソファを置いたり、居室や居間に面した窓から西日が入らないよう樹木を植え、くつろげる空間作りを行っている。又、展示物や花などで、季節感がでるよう、配慮している。 | | 継続していく。 |
| 82 | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 一人ひとりの居場所として、食堂は、ソファやテーブルの配置に気を配り、気の合う利用者と集えるよう談話室の畳部屋を設けている。 | | 継続していく。 |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|--|--|-----|----------------------------------|
| 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に利用者、家族の要望を伺い、本人が使い慣れた馴染みの物を持ち込んで頂けるよう配慮している。家族写真を飾ったり、仏壇を置き、毎日供養している利用者もいる。 | | 継続していく。 |
| 84 | 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 食堂、廊下、居室と、定期的に窓を開けて換気を行っている。トイレは使用后、外気にあてるようにしている。又、エアコンを使用する際は、利用者の身体状態に合わせて、共用スペース、自室の温度を調整している。 | | 継続していく。 |
| (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 玄関、廊下、食堂等ホーム内全周にわたり、独歩の利用者が行き来しやすいよう手すりを設置している。トイレ、浴室にも設置しており、自立した生活が送れるよう工夫している。 | | 継続していく。 |
| 86 | わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | ケアカンファレンスにて問題点を検討し、利用者の混乱、失敗を最小限に防げるよう努めている。お手洗い、浴室、居室には、車椅子利用の利用者にも見やすいよう、目線を合わせて表札を設置している。 | | 継続していく。 |
| 87 | 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 園庭の芝生にて昼食会を開いたり、楽しみながら活動できる環境作りに努めている。家庭菜園や花壇を設け、利用者の活動意欲を引き出す工夫も行っている。苑庭の芝生は、近隣の保育園の遊び場としても提供しており、気軽に園児と利用者が交流できる場となっている。 | | 継続していく。 |

・サービスの成果に関する項目

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に をつけてください。 | |
|-----|--|-----------------------|-------------|
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | | ほぼ全ての利用者の |
| | | | 利用者の2/3くらいの |
| | | | 利用者の1/3くらいの |
| | | | ほとんど掴んでいない |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | | 毎日ある |
| | | | 数日に1回程度ある |
| | | | たまにある |
| | | | ほとんどない |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | | ほぼ全ての利用者が |
| | | | 利用者の2/3くらいが |
| | | | 利用者の1/3くらいが |
| | | | ほとんどいない |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | | ほぼ全ての利用者が |
| | | | 利用者の2/3くらいが |
| | | | 利用者の1/3くらいが |
| | | | ほとんどいない |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | | ほぼ全ての利用者が |
| | | | 利用者の2/3くらいが |
| | | | 利用者の1/3くらいが |
| | | | ほとんどいない |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | | ほぼ全ての利用者が |
| | | | 利用者の2/3くらいが |
| | | | 利用者の1/3くらいが |
| | | | ほとんどいない |
| 94 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている | | ほぼ全ての利用者が |
| | | | 利用者の2/3くらいが |
| | | | 利用者の1/3くらいが |
| | | | ほとんどいない |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | | ほぼ全ての家族と |
| | | | 家族の2/3くらいと |
| | | | 家族の1/3くらいと |
| | | | ほとんどできていない |

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に をつけてください。 | |
|-----|---|-----------------------|-------------|
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | | ほぼ毎日のように |
| | | | 数日に1回程度 |
| | | | たまに |
| | | | ほとんどない |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | | 大いに増えている |
| | | | 少しずつ増えている |
| | | | あまり増えていない |
| | | | 全くいない |
| 98 | 職員は、生き活きと働けている | | ほぼ全ての職員が |
| | | | 職員の2/3くらいが |
| | | | 職員の1/3くらいが |
| | | | ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | | ほぼ全ての利用者が |
| | | | 利用者の2/3くらいが |
| | | | 利用者の1/3くらいが |
| | | | ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | | ほぼ全ての家族等が |
| | | | 家族等の2/3くらいが |
| | | | 家族等の1/3くらいが |
| | | | ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「ただいま」「おかえり」の挨拶が、利用者とスタッフ間で自然と交わされ、県外の家族も積極的に毎月面会にいらっしゃるなど、親しみのあるホーム環境である。職員は、生活全般を利用者が主体となって取り組んでいけるよう、認知症ケアに関する研修等に熱心に参加、学習しており、コミュニケーション障害があっても、利用者の行動・言動の有意義性を大切に、安心感のある寄り添うケアを心がけ、皆が笑顔で過ごせる環境作りに努めている。又、地域あつてのグループホームという事を念頭に置き、地域での美化活動には積極的に参加している。これにより、利用者や職員と、地域住民の触れ合いを作り、信頼関係を築いている。そして、自然が豊富な土地柄を活かし、家庭菜園や畑で作った野菜を、利用者と一緒に料理し、味わうのは勿論のこと、近隣の住民とやりとりを行っている。保育園の園児とも、ハロウィンやそうめん流し等、交流も活発である。これからも開かれたグループホームとして、地域の中に根付き、貢献していきたい。